

いたちかわらばん

通刊30号 鮰川・狹川 / 川原番・瓦版 05 夏号



(版画 宗森英夫)

(大いたち橋から下流を望む)

夏！ 涼風の吹く水辺へ

地球温暖化の影響からか、近年、夏の猛暑が厳しくな
ってきています。大都市では、ヒート・アイランド現象
が強まり、クーラー等の電力消費量も急増しております。
そのため、川の流域や海岸端の自然の涼風の価値があら
ためて見直されてきております。
そのようなことから、栄区の真ん中にいたち川が流れ
ていることは、都市計画の上でも、少なからぬメリット
があります。四季折々に自然の恩恵がありますが、夏場
は特に市民生活に潤いを与えてくれる場として、役立っ
ております。せせらぎの音を聞くだけでも、心が癒され
ます。

いたち川では、両岸のプロムナード(遊歩道)の整備
が進むとともに、「扇橋の水辺」「稲荷森の水辺」「坊中
の水辺」等が開設され、これから夏にかけ水辺で遊ぶ子
供達が見られます。各所にベンチがもうけられ、トイレ
も区役所裏と「扇橋の水辺」に設置されています。尾月
橋、紅葉橋間では、十九年度を目標に、新たに水辺の広
場等の整備を行っています。

健康増進のためのウォーキングやハイキングが盛んに
なり、団体で利用する姿も、よく目にします。犬の散歩
も盛んで、朝夕の水辺広場は、まるで、犬の集会所のよ
うにたくさん犬が集まっています。犬を通して新しい
人間関係ができ、人の輪がひろがっています

夕方になると、どこからとなく、夕涼みの人たちが現
れてきます。天然クーラーで冷やされた風が心地よく、
昼間の暑さを忘れさせ、元気を取り戻します。幹線道路
のような騒音も排気ガスもなく、活力回復の貴重な空間
が、そこにはあります。このすばらしい空間を、みなさ
んの手で大切に守っていただきたいと思えます。

(いもり)

いたち川流域をあらためて探索

昨秋、新入隊員が増えたことから、いたち川流域を
歩いてみようということになり、その機会をつくった。
5月15日(日)、7名のOTASUKE隊員が栄区役所
裏の大いたち・小いたち橋に集まった。9時に出発して、
上流へ向かって歩き始めた。途中、植物観察の実習の
ように、プロムナードや河川敷に生えている野草や植
栽を観察しながら歩いた。

すでに花のシーズンの終わったものもかなりあった
が、ちょうど花期の真っ只中のものもあり、いろいろ
な花にめぐり会えた。ハルジオン、セイヨウタンポポ
など外来種が結構たくさんあって、それらの植物が侵
入してくる以前は、どんな植物があったのか想像しにく
いくらいだった。

本郷石橋を経由で右支川を上流に向かって歩き、途
中環状4号線の道路を横断して本郷小学校裏から本川
に出た。扇橋の水辺でヤナギ類の観察をして、山沿い
の道を歩いて稲荷森の水辺へ出た。バス停：山手学院
入口から再び右支川へ戻り、押切橋、上郷フィールド
アスレチックを経て神奈中本郷車庫裏から思金神社の
下を通過して紅葉橋で本川に戻った。

光明寺前から川を離れて、環状4号線を歩き、神戸
橋で本川に出た。八軒谷戸を経て、昇龍橋付近で、今
年の3月に設置された新しい案内板を確認し、権現山
で昼食をとった。昼食後、長倉町小川アメニティでロ
ウバイの実を初めて見た。野七里小学校の子どもたち
の手で植えられた植物が生き生きと根付いていた。

環状4号線のバス停下郷から少し上流に行ったところ
から右側の沢へ降りると、いたち川は、小さなせせ
らぎとなっていた。栄土木事務所が架けた「権現橋」「源
示橋」「みなもと一の橋」「みなもと二の橋」などの小
さな木の橋を渡り、さらに奥へと進むと、樹木に覆わ
れたミニ渓谷に出る。渓谷が終わったあたりから片側
に狭い休耕田があり、セリなどが生い茂っていた。休
耕田が尽きてしばらく進むと、前方に高いフェンスが
さえぎっている。資源循環局の境界線だ。そのフェン
スの奥から水がちょろちょろと流れ出てくる。ここが、
いたち川源流の一つだ。フェンスがなければ、全く人
里離れた山奥といった静寂な世界だ。

自然の絵の具で絵を描こう！ 参加者募集



いたち川から水をとったら何がでてくる？ 魚、
水草、石、ゴミ・・・いろいろあるでしょう。そ
して、その下に土があります。土は身近に見ら
れるし、意外な所にも隠れています。いろんな土
をよく観察すると、色が違っているのに気がつき
ます。“土を使って絵が描ける？” それには、ど
うすればいい？ やってみたいと思いませんか？

本郷台駅のそばにある「あーすぶらざ」では、自然
の絵の具で絵をかこう！というワークショップの参加
者を募集しています。何をするかというと、いたち川
の扇橋の水辺付近と、本郷ふじやま公園で土を使って
絵を描いてみるのです。どんな絵が描けるか、楽しみ
ですね。

- 問合せ先：
地球市民かながわプラザ「あーすぶらざ」
地球市民学習課の横山さんへ(月曜休館)
電話 045-896-2899
FAX 045-896-2945

- ◎名称：アートと環境「自然の絵の具で絵を描こう！」
- ◎日程：ワークショップ 8月20日(土)
10時～15時【雨天時 8月27日(土)】
- *11月にもワークショップ、展覧会(2週間程度)予定
- ◎場所：あーすぶらざ1階ワークショップルーム集合、
そこから目的地に移動(現地解散)
- ◎対象：大人～子供まで(小学生以上)
- ◎定員：30名(先着順)、費用：無料
- 申込み：8月10日(水)より受付開始
- ◎主催：地球市民かながわプラザ、共催：栄区役所
- ◎協力：いたち川 OTASUKE 隊
本郷ふじやま公園運営委員会

発行年月
2005年7月

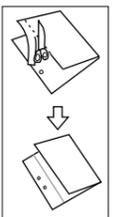
通刊30号

発行：独川OTASUKE隊(いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道・公園係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせは こちらまで)

切り取り線

この部分を
切り取って
ファイルにす
ると便利です



いたち川にも戦争の傷跡 (戦後60年の今も)

本郷台駅前一带にあった海軍燃料廠

太平洋戦争中、現在のJR本郷台駅周辺は、旧大日本帝国海軍の第一海軍燃料廠(昭和13年建設、地図参照)があった。北は現在の栄第一下水処理場あたりから南は栄共済病院あたりまで、東は現在の県立柏陽高校グランドあたりから西は警察学校グランドあたりまでの一帯が燃料廠の施設で埋められていた。

燃料廠の中央に「いたち川」が流れていた

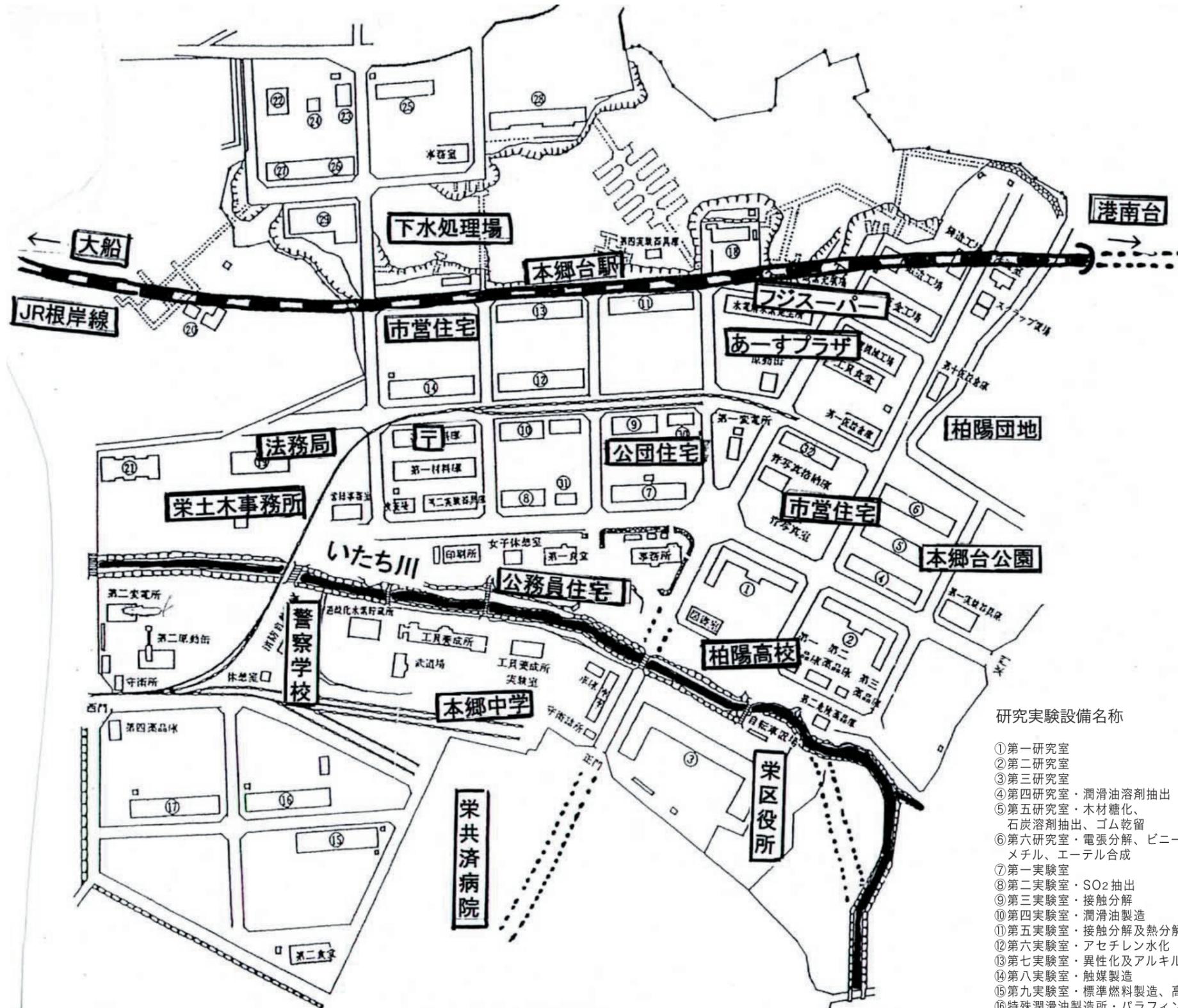
現在は、河川改修工事が完了して、護岸もコンクリートで固められているが、海軍燃料廠時代には、いたち川も自然の小川であった。敗戦によって、軍隊が解体され、軍事施設が閉鎖されたおり、武器弾薬や化学薬品などがいたち川に遺棄された。昭和の終わり頃、いたち川から拳銃の不発弾や黄燐(水中では安定しているが、空気にさらすと急激に反応し、発熱する危険な物質に変化する)が発見され、付近の住民を不安に陥れる事件が起こった。川底を浚渫するには、危険が大きく、経費もかかることから、川底にコンクリートブロックを敷き詰めて覆ってしまう方法がとられた。現在、区役所裏から海里橋までの区間にコンクリートブロックが川底を覆っているのは、そのような歴史が秘められている。武器弾薬や化学薬品の一部は今も、いたち川の川底深くに眠っている。

現在の環状4号線は軍用道路だった

第一海軍燃料廠と追浜にあった海軍飛行場(現日産自動車追浜工場)を結ぶ軍用道路として開発されたのが、現在の環状4号線(県道原宿・六浦線)である。その時に相武トンネルも造られた。

海軍燃料廠には軍用貨物列車の引込み線もあった大船駅から笠間十字路を通って、現在の警察学校グランドを突っ切って、警察学校前の橋を渡って現・駅前商店街まで軍用貨物列車の引き込み線の鉄道が敷かれていた。戦後、自治体が架けた橋には全て橋名がつけられているが、警察学校前の橋には名前がついていない。

現在、いたち川に架かっている鉄道橋は、タツノの下流、柏尾川との合流地点のすぐ上流側に、東海道本線、横須賀線、根岸線のもの架かっている。



研究実験設備名称

- ① 第一研究室
- ② 第二研究室
- ③ 第三研究室
- ④ 第四研究室・潤滑油溶剤抽出
- ⑤ 第五研究室・木材糖化、石炭溶剤抽出、ゴム乾留
- ⑥ 第六研究室・電張分解、ビニール、メチル、エーテル合成
- ⑦ 第一実験室
- ⑧ 第二実験室・SO₂抽出
- ⑨ 第三実験室・接触分解
- ⑩ 第四実験室・潤滑油製造
- ⑪ 第五実験室・接触分解及熱分解
- ⑫ 第六実験室・アセチレン水化
- ⑬ 第七実験室・異性化及アルキル化
- ⑭ 第八実験室・触媒製造
- ⑮ 第九実験室・標準燃料製造、高圧水素添加
- ⑯ 特殊潤滑油製造所・パラフィンワックス分解、ヘックスマン式真空蒸留釜
- ⑰ グリース製造所
- ⑱ 耐爆熱実験室
- ⑲ 第一過酸化水素濃縮工場
- ⑳ 第二過酸化水素濃縮工場
- ㉑ 過酸化水素フラスコ濃縮工場
- ㉒ 第一航空発動機実験場・実用機械
- ㉓ 第二航空発動機実験場・ロケット燃料テスト
- ㉔ 特殊燃料実験場
- ㉕ 高圧燃料実験、潤滑油試験機関室
- ㉖ ディーゼルエンジン実験場・31型単箱ディーゼル及61型高速試験機関
- ㉗ ボイラー燃焼実験場
- ㉘ 石炭液化実験場
- ㉙ 低温低圧実験場
- ㉚ 揮発油重合実験場
- ㉛ 原油蒸留実験場
- ㉜ 化学工業研究室

(出典 燃料懇話会編 日本海軍燃料史、原書房、昭和47年、ほかを基に作成)

◻ 囲み文字は現在の施設